

リーディングDXスクール事業【実践事例】

奈良市立鼓阪北小学校

【取組内容】 授業に対する意識の改革～「教師が教える」から「子どもが学ぶ」へ～

1. 本校の研究主題

「主体的に学び 考えを深めていく子どもの育成 - 協働的な学びを通して -」

2. 年度当初の状況

本市指導主事が年度初めに各教室の授業風景を観察したところ、子どもの1人1台端末を利用した授業を展開しているものの、ほとんどの学年・学級において教職員による一斉授業が中心であり、子どもの主体的な学びや対話的な活動が十分に見られない状況でした。この現状を踏まえ、管理職と協議の上、まずは個々の教員の授業に対する意識改革を進める必要性があることを確認しました。

3. 年間の取組

【1学期】

○ 指導主事による教員の授業づくりの伴走支援

指導主事の助言と伴走支援のもと、各教員が日常の授業で「子どもが自ら進んで考える授業」の実現に向けて試行を行いました。

○ 先進地視察

1人1台端末を活用し、子どもが主体的かつ対話的に学んでいる学校の授業を見学しました。視察に参加した教員は、得た知見を全職員に共有し、授業づくりのノウハウを校内に広めました。

【2学期】

○ 1人1実践

先進地視察や伴走支援を通じて得た見識を基に、各教員が1人1台端末を効果的に活用し、子どもが主体的・対話的に学ぶ授業を積極的に実践しました。また、実践結果を職員間で共有し、相互の授業改善に努めました。

○ 「探究のサイクル」の活用

子どもがより深い学びに到達できるよう、「課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現」の探究のサイクルを授業に取り入れました。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

奈良市立鼓阪北小学校

【取組内容】授業に対する意識の改革～「教師が教える」から「子どもが学ぶ」へ～

- 研究授業の実施（2年生 体育「ボールゲーム」）
子どもの苦手意識に配慮し、レベルアップしたい動きを（遠くに投げる・狙って投げる・強く投げる）自分で選択・決定し、友達のアドバイスを受けながらスキルの向上を目指していました。

【3学期】

- 奈良市リーディングDXスクール公開研究会における公開授業の実施
1年生 国語「ずうっと、ずっと、大すきだよ」および4年生 社会「シカとともに生きる奈良市」の授業を公開し、子どもの主体的な学びの成果を発表しました。当日は、参観された方々からも「子どもが端末活用を目的化せずに主体的・対話的に学習ができており、自校に持ち帰るべきことがたくさんある」という声がたくさん上がっていました。

4. 取組の成果

本取組はまだ道半ばではありますが、教員の授業に対する意識に変化が見られ、徐々に子どもたちの主体的な活動や思考の深化が見られるようになってきました。特に、1人1台端末の日常的な活用や探究のサイクルの導入により、子どもたちが自ら課題を見つけ、協働的に解決に向けて思考する姿が見られるようになりました。今後も継続的な実践を通じて、さらなる授業の変革を推進していく予定です。

